みなとMOTOMACHIケンチクさんぽ vol.6

公益社団法人 日本建築家協会 近畿支部
兵庫地域会　地域まちづくり委員会

# 海岸ビルヂングと私と

海岸通３丁目に建つ海岸ビルヂングは、この沿岸部にありながら阪神・淡路大震災（1995年）を生き延びた貴重な明治の近代建築（1911年、明治44年竣工）です。

私は地震をはさんだ７年半（1993年～2000年）、このビルの３階にある建築設計事務所に勤めていました。学生の時からアルバイトで出入りしていたので実際はほぼ10年。旧居留地内の海岸通６番地に建つ「海岸ビルディング（1918年、大正７年竣工）」と名前が似ているので、仕事で来られる方が間違うこともしばしば。どちらも「国道２号線に面する海岸通の海岸ビル」には違いないので、「チに点々の方」「旧居留地でなくてもっと西」と説明していました。ただ、竣工時は兼松商店（現株式会社兼松）の兼松房治郎が建てた「日豪会館」という名称であり戦後、別のオーナーに渡って「海岸ビルヂング」に。一方、「海岸ビルディング」の方も、最初は「三井物産神戸支店」でした。

このふたつの「海岸通の海岸ビル」は、いずれも河合浩蔵という設計者の手によるもの。「東の海岸ビルディング」は震災後ファサード保存されたものの、内部空間は新しいものにとって変わり、その頭の上にガラスのカーテンウォールのかたまりを載せたような建築に変わりました。

「西の海岸ビルヂング」は中央部分にクラックは入ったものの倒壊はまぬがれました。地震に耐えたのは、河合浩蔵が免震の技術に深い理解があったことと、その後戦災で屋根が抜け落ちた後、鉄筋コンクリートによる耐震壁と陸屋根での補強の効果であったと、私の恩師であった故有村桂子氏が著書に記述しています。（異人館復興　神戸市伝統的建造物修復記録／神戸市教育委員会編／住まいの図書館出版局）

さて、私が初めてここの事務所にうかがうことになるのはバブル末期1991年、翌年ハーバーランドが街開きとなる震災前の神戸がとても輝いていた時期でした。以前に中元配達のアルバイトで旧居留地内の近代建築にある別の設計事務所にうかがったこともあったので、設計事務所はこういう歴史ある建築物の中にあるんだよなと、素直に受け止めたように思います。ただ、まわりのテナントは海運関係の会社がほとんどで、設計事務所は異質でした。ビルの東隣には倉庫会社があり、お昼休みになるとその前の細い路地で力自慢の従業員の方たちが２手に分かれて本格的な綱引をしていました。おそらく競技に出られていたのだろうと思います。そんなふうに、周りも今あるような若者向のお洒落なお店はまだほとんどなく、昭和の時代をひきずった匂いのする場所でしたが、この頃、路地の突当りになる１階にカフェが入居しました。構造体である煉瓦の表情が見えるように、オーナー自ら幾日もかけて内壁の仕上の漆喰をけずっておられました。今ではすっかり人気のスポットになっています。

建物の内部、廊下までは古い佇まいのままでしたが、一歩事務所に入ると薄いピンクの壁と淡い水色に塗られた天井、アクセントカラーで仕上げられた本棚等々で、こんなふうに古い建物を生かすんだとプロの手法に感心した記憶があります。借りていた２つの部屋の間の壁を人が通れる大きさに穴を開けてそのままでしたから、壁の厚み50cmぐらい、煉瓦積みが露出しておりました。天井も高く４mほどでしたでしょうか、そこから長く吊り下げられた蛍光灯の下で製図板（手書きの時代です）に向かう毎日でした。

窓周りに特徴的なキーストーン風デザインが施され重厚な南側ファサード

東側の路地奥に佇む同ビル（正面３階が「いるか設計集団」）

3階ホールから大階段を見下ろす（左手が「いるか設計集団」）

日々上り下りした北側の鉄骨階段

３階まで一直線に南からあがる大階段とその天井ステンドグラスが特徴ですが、夕方で南の入口が閉まるため私たちがここを通ることはあまりなく、北側にある鉄骨トラス階段を上がり下りしました。鉄の手すりの握った感触とバンバンと響く足音は、今でも感覚が残っています。夕方以降は他の会社はほとんど誰もいなくなり、暗い廊下をぬけて男女兼用のトイレ（２つのブースの一方に女子のマークが貼ってあり、小便器がその前に並んでいました。）に向かうのは少し怖い空間でした。ここにいた10年弱の間に海運会社は減っていき代わりにポストカードや雑貨を扱うお店が入ってきました。最近もほぼそういうお洒落なお店やアトリエが入居しているようで、随分と雰囲気が変わりました。数年前には某アイドル主演の映画のロケにも使われたようです。

そして忘れられないのは、震災後の電気、ガス、水道が止まっていた頃。事務所のスタッフの過半は大阪に設けた仮の拠点で仕事を続けましたが、事務所より西に住む私を含む3人はここで留守番しながら仕事をすることになりました。また、一緒に仕事をしていた構造設計事務所が入居している建物が全壊したため、空いたスペースにしばらく引っ越してこられました。構造家の彼が設計した建物はどれも無事だったのですが、街中の建物が壊れたことにとても胸を痛めておられ、ここでお酒を飲みながら泣いておられたことがありました。そんな、暗い、寒い、まだ揺れる中、ここに神戸市の方が「仕事できるか？」と飛び込んで来られたことも昨日のように思い起こされます。これがその後、神戸の観光の顔である異人館修復の仕事になり、それを担当した思いから北野に自分の事務所を構えることになり21年が経ちました。

勤めていた「いるか設計集団」（変わった名前ですが設計事務所です。）は今も同じ３階の一角にありますが、恩師の有村さんは昨年ご病気で亡くなられました。４０数年、ここに拠点を置き神戸の近代建築を見守り続けてこられ、私を含め多くの建築人を育てられました。今でもあの重い鉄のドアのむこうにおられる気がしてなりません。

私だけでも数多くの記憶がここあります。神戸の歴史を生き抜いてきたこれらの建築は、そういった数多くの人の記憶が積み重ねられて今に至っています。記憶に残る建築を次の時代に引き継ぐために少しでも力になれたらとの思いで、日々、仕事に取り組んでいます。

長尾 健（ながおけん）
長尾健建築研究所 代表／
（公社）日本建築家協会 前兵庫地域会長